

令和2年度新型コロナウイルス抗体保有率調査の結果について

1 要旨

昨年度、県内の市中感染の実態を把握するために新型コロナウイルス抗体保有率調査を実施し、全体的な評価を行いました。

4種類の試薬を用いて検査し、2試薬以上で陽性となったものを「陽性」と判定したところ、抗体保有率は第1回0.03%、第2回は0.08%、第3回は0.30%と、徐々に増加しているものの、依然として大半の人が抗体を保有していなかったという結果でした。

2 調査結果等

(1) 調査概要

- 対象市町：5市町（広島市、福山市、三次市、東広島市及び北広島町）
- 対象者数：7,500名（住民基本台帳からの無作為抽出による）
- 調査実施機関：広島大学大学院医系科学研究科 疫学・疾病制御学 田中純子教授
- 測定試薬製造元：ロシュ（1種類）、アボット（1種類）、オーソ（2種類）計4試薬

(2) 調査結果

項目	第1回	第2回	第3回
調査期間	令和2年8月～9月	令和2年10月～11月	令和3年1月～2月
参加者数	3,025名	2,396名	2,351名
参加率	40.3%	31.9%	31.3%
測定試薬及び判定条件	ロシュ、アボット及びオーソ（2種類）の計4試薬のうち、いずれか2試薬以上で陽性		
抗体陽性者数	1名	2名	7名
抗体保有率	0.03%	0.08%	0.30%
広島県累積感染者数（感染率）	8月末：458人（0.02%）	10月末：662人（0.02%）	1月末：4,831人（0.17%）

【国の調査結果（令和2年12月速報値）との比較】

	東京都	大阪府	宮城県	愛知県	福岡県	広島県
調査時期	令和2年12月					令和3年1月～2月
測定試薬及び判定条件	ロシュ、アボットの計2試薬で、いずれも陽性					
抗体保有率（A）	0.91%	0.58%	0.14%	0.54%	0.19%	0.21%
累積感染者数/人口（B）	0.316%	0.258%	0.057%	0.151%	0.120%	0.17%
(A) / (B)	2.9倍	2.2倍	2.5倍	3.6倍	1.6倍	1.2倍

3 田中純子教授（広島大学）コメント

- ◆ 抗体保有率は徐々に増加していたが、12月以降の県内いわゆる第4波後も、依然として大半の人が抗体を保有していない状況にあったと言える。
- ◆ 今後、ワクチン接種が進むことで、抗体保有率も高くなることが予想されるが、現時点では集団免疫獲得と言える状況にないことから、引き続き感染防止対策の徹底が必要である。
- ◆ また、国の調査と同じ判定条件で比較すると、本県の抗体保有率と感染率（人口当たりの累積感染者数）とのギャップが他県より小さいことから、本県における感染者の捕捉率は相対的に高いことが示唆される。
- ◆ ウイルス学的検討からは、広島県内の流行波は県外からの流入によって始まっていることが示唆された。県外への移動や、県外からの来訪者との接触に際しては、感染予防対策をさらに徹底していくことが重要である。

（参考）

- 抗体検査は、現在の感染状態を確認できるものではありません。陽性の場合、検査を受けるまでのどこかの時点で、ウイルスに感染したことがある可能性があることを意味します。
- 現時点で、抗体の性質（体内で抗体が作られてから消失するまでの時間や2回目の感染から守る機能があるかなど）は、確定していません。